

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700150		
法人名	有限会社 三河接骨院		
事業所名	グループホーム やわら		
所在地	千葉県銚子市後飯町3-18		
自己評価作成日	平成30年1月17日	評価結果市町村受理日	平成30年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成30年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念として「なじみの町で共に生きる」を掲げています。利用者様が、自宅に居るように過ごしていただくこと。利用者様同士が、近くに住んでいる友人のように他人を思いやれること。職員はその方のペースに合わせて見守っています。利用者様の想いを大切にしています。職員は、必ず声かけして利用者様が話しやすい環境を作っています。ご家族と利用者様のつながりを重視して、面会や外出時には、職員から近況を説明する、外出から戻った時には、様子を伺っています。食材料は地産地消です。今年は、外食や外出を企画して、普段とは違う場所で、いろいろな出会いを作り、生活に張りを持っていただきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長、管理者、職員および利用者がいずれも地元出身で、地域に密着し、町の人々との交流が多い家族的なホームである。「なじみの町で共に生きる」の理念を反映した運営に努力している。管理者は着任1年目であるが、他ホームでの豊かな経験を活かしながら支援の充実に取り組み、職員から、「話をよく聴いてくれるので話しやすい」との声が多い。管理者の発案で、昨年の勤労感謝の日に、ホームから利用者全員に感謝状を贈った。人生の先輩として永年の働きに対するホームからの感謝の表彰であり、「生まれて初めて賞状をもらった。とても嬉しい」と喜んでいる利用者の笑顔の写真が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なじみの町で共に生きる」を理念に掲げ一人ひとりの主体性を大事にし、その人らしい生活を送れるよう、管理者、職員は、理念を共有、実践に向け日々努力している。	理念は入口正面の見やすい場所に掲示されている。なじみの町でなじみの人と一日を楽しく過ごせるように友人・知人の訪問には積極的に対応している。友人・知人と出会う機会が多い公園、港などへの外出支援もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域の中で暮らし続けられるよう事業所、職員一同が地域の一員として少しずつではあるが、日々の、暮らしの中に交流を見出し、努力している。また中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。	地元の人と顔なじみの利用者が多く、買い物などの外出時にはよく声を掛けられている。中学生職場体験は今年で3回目。3日間、中学生と生活を共にして、若い人たちと話をすることで、利用者の気分転換、ホームの活気につながった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所、職員の努力により、舞踊、紙芝居、園児達の訪問等増す中、地域の皆様にどの様な貢献ができるのか、模索しながら、少しずつではあるが実践につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、サービスの実際、評価への取り組み、意見等、戴くことでサービスの向上につなげ、活かしている。	運営推進会議は2か月に1回行われている。自治会、家族、地域包括支援センター、歯科医など参加者は多い。ホームからは利用者状況、活動状況、ヒヤリハットなどの報告を行い、参加者から意見や質問があり、双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修参加。高齢者福祉課や地域包括センターの協力を得て、課題解決に向けての指導を受けたり、また他市町村からの研修情報を得て積極的に参加している。市との良好な協力関係を築けるよう努めている。	利用者の生活保護手続きやケアプランの作成要領の相談、市の研修等への積極的な参加を通じて、市役所や地域包括支援センターとは顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加、市の認知症ケア会議の意見を聞いたり代表者、職員は玄関の施錠を含め、身体拘束しないケアに取り組んでいる。適切なマニュアルを使用して施設内会議を開きケア方針の共有を図っている	身体拘束をテーマとした倫理委員会を1月に開催した。利用者の立場や意思、個性を考慮して押し付けない介護をすることを委員全員で決定した。身体拘束は絶対しない、との施設長の強い方針の下、職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者・管理者は虐待防止を徹底している、また職員全員が絶対にしてはいけないことと理解している。施設内研修も実施。実践につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所では実践、包括や日常生活支援事業所の協力を受け支援につなげている事例がある。また、この制度についての研修があり学ぶことができた。必要に応じて活用できるよう努め実践につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明は行っている。利用者様ご家族様の要望、不安や疑問等がないか、確認し理解納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、手づくりの意見箱の設置、2か月に一度の推進会議。地域有識者、利用者ご家族様、利用者代表者の意見等、また面会時、電話等で近況報告、要望、意見などをいただき運営に反映している。	運営推進会議で家族から提案のあったAEDを設置するなど、利用者から要望を積極的に聞いている。意見箱も入口に設置しており、家族や利用者の意見に積極的に対応する姿勢が窺われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常に職員が意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。毎月、月例会議を実施、職員の要望、意見等運営に反映させている。問題があればその都度話す機会を設けている。	毎月1回月例会議を開催し、運営に関する職員の意見を聞いている。管理者が話しやすい雰囲気づくりをしており、いろいろな意見が出されている。また、職員の事務室への出入りも多く、管理者と職員の日ごろのコミュニケーションは良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や現場の職員の声に耳を傾けて、問題があった場合には職員と話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がモチベーションを保てるように内外の研修を取り入れて、職員自らスキルアップに挑んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括や同業者主催の勉強会等に参加することにより同業者との交流を通じサービスの向上につながる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話すことに耳を傾け本人の気持ちに寄り添い、不安なこと、困っていること、要望は何かを導き出しながら、安心を確保する為、本人の不安解消に努め信頼関係が結べるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の意向を尊重しながらもご家族様の思いにも傾聴し、話し合いを重ねていく中で信頼関係の確立に向け努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様が必要としている、サービスは何か、本人、家族の話、情報提供票を参考にし、見極め課題解決に向け努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること疎外せず協力し互いに助け合う関係づくりを続けられるよう、取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるために、ご家族の協力を得ている。職員には、申し送り等で家族と一緒に支援することの重要性を説明している。本人と家族のつながりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人ゆかりの場や若かった頃の役者や歌手の情報を入手し、本人に想い出して貰ったりしている。外出時になじみの場所に立ち寄る企画をしている。	生活歴や家族の話から利用者ごとの好みや趣味等を把握している。職員は流行歌や映画等の話題を提供するなどして往年の思い出などの話を聞いている。馴染みの寺院参拝や犬吠埼などへの外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、良い関係が確保でき、保てるよう、孤立しないよう、職員が心配りし、一つ屋根の下で暮らす仲間、穏やかな日々が送れるよう職員は心掛けて支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談応じる体制は出来ている今までの関係性を大切にしながら必要に応じて本人、家族に相談があれば何時でも気軽に相談しやすいように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でその人にとって何を必要とするのか関わりの中で、観察し把握に努め思いをくみ取り支援につなげたいと心掛けている。	利用者本人を理解することは「よく話を聴くこと」との事業所方針があり、声掛けやコミュニケーションを大切にしている。大勢の中では言えなかったことも一対一ではポツポツ話してくれ、その言葉の中から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、本人様と関りの中で、またご家族様来訪時コミュニケーションを図り、深めるなかで、馴染みの暮らし方や思いを把握することに努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様、一人一人の1日の過ごし方を概ね把握しており、いつもと変わった様子が見られれば、ナース等に報告、また本人のできることは阻害することのなよう見守り、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が不安なく暮らせるように、職員は、日常の少しの変化でも申し送り、気持を察している。介護計画には、必要な場合は取り入れている。	居室担当制を採っている。気づきや本人の変化等記入の毎日の連絡帳や介護記録・職員の意見、家族の希望等を取り入れた介護計画を作成している。モニタリングは6か月毎としているが、必要な場合はその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別のケース記録、排泄、水分、食事量や夜間の睡眠状態等を記録している。受診時には、職員は記録を携えて主治医に説明している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族の要望をよく聞き取り、実現できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め活用し利用様が心身ともに健康で、安全な暮らしを営むことができるよう職員と共に検討し支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、ご家族様のご希望等大切にし掛かり付け医に適切な医療が受けられる様、時には家族様の協力を得、また家族様の都合で看護職員付き添い支援している。	利用者全員が、利用開始以前からのかかりつけ医を継続しており、かかりつけ医や歯科医等受診は家族の対応を基本としている。家族対応が出来ない場合は職員が代わって支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は些細の情報でも、毎日の申し送りで開示し病院受診時の医師への説明に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との連携は密に行っている。利用者様、入院の際、安心して治療できるように、また早期に退院できるよう支援につなげている。、病院関係者との関係づくりは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設4年目に入ったが看取りの体制はとっていない。入院、長引けば退所という形をとっている。今後、重度化や終末期に向けた方針、体制を調える準備を進めて行かなくてはと思っているところではある。	重度化や終末期対応は行っていない。今のところ、状態が悪化した時は医療機関に一時的に入院・長期間になる場合は退居になっている。将来は看取りに取り組みたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習は専門講師を招き実践している。また職員の中では役所主催の講習を受けている職員もいる。順を追って全職員に講習を受けてもらう準備は整っており、実施もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者避難訓練は年2回消防署指導のもと行っている。地域との協力体制を築けるよう心掛けている。また地域、近隣の住民高齢化しており、協力体制は築けているとは言えない。	年2回の避難訓練では利用者も一緒に実施している。防災業者指導では機器の説明と取り扱い方法、またAEDを設置し使用方法を習得している。他に津波や土砂などの災害避難について学んでいる。3日分の米や飲料水など備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親愛の情をこめて「～ちゃん」と愛称で呼んでしまいがちだが、当事業所では「～さん」と統一している。毎日のお世話の中で本人を敬う気持ちと大切にしている気持は、さりげなく表出できている。	人生における先輩を敬う気持ちで、利用者に対して礼儀正しく接するように努めている。名前の呼び方をはじめ、言葉遣いやイントネーションにも心配りしている。排泄や入浴時には本人だけに聞こえる声で伝えるなど、プライバシーを損ねないように言葉遣いや、声かけのタイミングに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を尊重している。ご家族との話し合いの中から、本人の気持や性格等を理解し、声かけや何げない会話の中で遠慮することなく自由に意見を出せる環境づくりを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者様、優先であることを念頭に置き、利用者様の希望に添えるよう努め、支援に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が素敵に見えるよう職員は利用者様の尊厳を損なうことのないよう心掛けて支援に取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から見える所にその日のメニューを掲示している。バランスの良い食事を提供し、また多数の利用者様に下肢筋力低下が見られ、準備等の参加は安全を確保することから参加に至っていない現状です。	重度の方が多くなり、準備や片付け等を一緒に行える方はいない。利用者の好む地元産の食材を使った食事が提供されている。ペースト状食の方や目の不自由な方には、一匙毎に食事の内容を説明し、味の違いを伝えている。食前には口腔体操を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取、水分量は1日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態に応じた支援につとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため職員が関わりを持って対応、利用者様の能力に応じた支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らしたいと排泄のパターンを把握してトイレでの排泄できるよう試みたり、実践に向け対応している。	おむつやポータブルトイレ使用の方など、個々に応じた支援をしている。目の不自由な方は、ベッドの傍らに設置したポータブルトイレへの移動を動線感覚の中で習得して貰い、トイレでの排泄が出来るよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不快感を招いたり、排便時に意識消失が実際にあったので、運営推進会議で有識者から「便秘と迷走神経との関係」の講義を受けた。以前より利用者様の排便確認を徹底している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ一人ひとりの希望に沿った入浴を心掛けている。週3回程度の入浴を実施している。ゆったりと入浴を楽しむことができるよう2班に分かれ一日おき週3回入浴支援実施している。	一日おき週3回午前中の中の入浴支援をしている。状態に応じ職員2人対応の時もある。拒否の方にはバイタルサインチェックを行い、時間や日を替えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や季節、その時々状況に応じて気持ちよく安眠できるよう心掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の飲み忘れ、飲みすぎがないよう支援している。また職員は薬の目的や副作用等を理解している。誤薬のないよう注意を払い服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を送っていただきたいと職員は心掛けている、日々楽しみ事、気分転換等を模索しながら支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿い戸外に出かけことの支援は出来ているとは言えない、希望があれば叶えてあげたく、外出支援につなげたい。施設での外出は、いちご狩り、外食等、利用者様全員お連れすることができた。	交通量や坂道が多いホーム周りの状況から、日常の戸外の散歩は難しいため、併設の小規模施設まで室内を散歩代りに歩いたりしている。今年度はいちご狩り、外食など外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持ち使うという気持ちがある事のも大切さを理解しているが難しい場面もあり今なお支援に至っていないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話を掛けたいと訴えがあれば快く支援につなげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりを心掛けている生活感や季節感を、利用者、職員、共同作業で採りいれたり、居心地よく過ごせる工夫をしている。ゆったりと過ごせるソファなど設置。思い思いに過ごされている。	廊下、居間、台所等の共用の空間は、音、光、色、広さ、温度など適切に配慮されている。居間には季節に応じた職員との共同作品が飾られて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でひとりになれたり、気の合った利用者様同士過ごせる居場所づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は居心地よい工夫がされている、また本人が使い慣れたものや好みのものを活かし居心地よく過ごせるように工夫をしている。	使い慣れたものを持ち込み、テレビや小物等好みに配置し、クローゼットもきちんと整理されている。利用者ごとの好みに応じた居室作りがされ、各々が居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーを活かした安全な環境づくりがされている、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫がされている。併設した施設においても自由に行き来可能である。		